

第111期 報告書

2016年4月1日～2017年3月31日



当社最大の都市型物流拠点「Tokyo C-NEX」(東京都江東区・2017年1月竣工)



トップメッセージ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。第111期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

齋藤 充

当連結会計年度のわが国経済は、底堅い企業収益や雇用・所得環境の改善などに支えられ、緩やかな回復基調が続いているものの、可処分所得の伸び悩みなどにより、個人消費は依然として力強さを欠く状況で推移いたしました。また、海外では中国をはじめとした新興国の景気減速や欧州の政情不安、米国における保護主義政策の動向など、各国における不確実性の高まりによって、不透明感の強い状況で推移いたしました。

このような経済情勢のなか、物流業界におきまして、国際貨物はアジア向け航空貨物が伸長するなど、回復の兆しがみられる一方、国内貨物は、生産関連貨物が減少するなど、引き続き低調に推移いたしました。

日通グループは、このような経営環境のもと、当連結会計年度から3カ年の新経営計画「日通グループ経営計画2018-新・世界日通。」をスタートさせ、前経営計画における事業構造改革を踏まえ、「エリア戦略」と「機能戦略」を軸として、真のグローバルロジスティクス企業を目指し、グループ一丸となって取り組んでまいりました。

【エリア戦略】

- 日本では、大都市圏を中心に組織の一体化をさらに進めることで経営資源の集中と効率化に取り組み、ワンストップ・アカウント営業体制を強化することで、グローバル企業との取引拡大を図ってまいりました。また、地域密着型営業を拡大するべく、地域の特性を活かした新サービスの企画や新たに海外に販路を求める顧客の支援など、様々なニーズに応じたロジスティクスサービスの提供に努めてまいりました。
- 海外では、南アジアを中心に経営資源の集中投下を行い、事業基盤確立のための積極的な拠点整備を加速させるとともに、重量品建設事業のグローバル展開を強化するなど、当社が強みを持つ事業の海外展開をさらに進めてまいりました。また、非日系グローバル企業に対するアプローチの強化に向けた組織の設立を行うなど、日通グループの成長をけん引するための取り組みを行ってまいりました。

【機能戦略】

- 営業力の徹底強化では、ワンストップ・アカウント営業体制の一層の強化に加え、陸・海・空が一体となり、新サービスの開発や顧客情報の共有化を推進し、収益の拡大に努めてまいりました。
- コア事業の強化と高度化では、三国間フォーディング事業の拡大や各国の国内物流強化のため、海外での自社倉庫の建設を積極的に進め、競争力の向上に取り組んでまいりました。
- グループ経営の強化では、グループ各社と連携し、顧客基盤の共有化を図り、電機産業・ICT・情報資産管理などの各分野におけるプラットフォームの構築によるネットワークの拡充や物流品質の高度化などに取り組んでまいりました。
- 経営基盤の強靱化では、管理・企画機能の強化および生産性の向上に向けた間接業務の標準化などを推し進め、経営の柔軟性、迅速性をさらに高めてまいりました。
- グループCSR経営の更なる強化では、ダイバーシティの推進や長時間労働の撲滅など、働きやすい環境づくりへの取り組みを積極的に進めてまいりました。

この結果、第111期連結経営成績につきましては、連結売上高は1兆8,643億円(前連結会計年度比2.3%減)、営業利益は574億円(前連結会計年度比4.8%増)、経常利益は638億円(前連結会計年度比2.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は364億円(前連結会計年度比2.2%増)となりました。

今後の経済動向につきまして、国内経済は、個人消費の回復に鈍さが続くものの、海外経済の持ち直しを背景として、輸出・設備投資を中心に景気は緩やかな回復基調で推移すると見込まれております。また、海外経済は、米国の雇用・所得環境の改善による消費マインドの上昇や資源国経済の持ち直しなどにより、緩やかな拡大基調が期待されておりますが、米国政権による政策動向の不透明感や世界的な地政学リスクの高まりなども顕在化しており、引き続き不確実性の高い状況で推移すると予測されております。

物流業界におきまして、国内貨物は、長期化する個人消費の低迷を受け、引き続き低調に推移するものの、国際貨物は、世界経

済の緩やかな回復のもと、アジア向け輸出貨物などを中心に底堅く推移すると予測されております。

一方で、働き方改革の実行による生産性の向上や人材の確保への取り組みに加え、AIやIoTをはじめとした先端技術の導入による次世代物流サービスの構築など、業界全体で取り組むべき多くの課題にも直面しております。

日通グループは、このような経営環境のもと、3カ年の経営計画である「日通グループ経営計画2018-新・世界日通。」の達成に向け、重点戦略である「エリア戦略」と「機能戦略」の遂行に、グループ一丸となって取り組んでおります。

【エリア戦略】

「日本」では、2017年5月に実施した国内ブロックの組織再編により、成長性・収益性が見込まれる分野への迅速な経営資源の集中を進め、組織が一体となった営業展開を行うことで、グローバル案件のさらなる獲得を図ってまいります。また、「海外」では、成長が見込まれる東南アジアにおいて、未進出国を含めたネットワークの拡充に向け、集中的に投資を行うとともに、欧米における事業領域の拡大にも積極的に取り組んでまいります。

【機能戦略】

様々な輸送モードを組み合わせたネットワーク商品の総合的な企画・開発・販売促進を図り、営業力を一層強化してまいります。さらに、AIやIoT、自動運転等の新技術を、物流業界が新たな価値創造型産業へと転換・革新できる機会をとらえ、グループ全体で物流先端技術の実用化を主導し、業界における競争優位を確立してまいります。また、安全・安心を基本とした物流サービスを、世界中の人々に提供することで、社会的課題と持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

日通グループは、新経営陣を先頭に、これらの重点戦略を着実に実行していくことで、グローバル展開を強力に推し進め、さらなる成長と、より一層の企業価値向上を図り、株主の皆様のご期待にお応えする所存でございますので、引き続き株主の皆様のご理解とあたたかいご支援をお願い申し上げます。

日通 JUST NOW!

この半年間の
動きを
CHECK!



TOPICS 1

世界と日本を結ぶ ゲートウェイ、 「Tokyo C-NEX」竣工

多様化する物流ニーズに対応

2017年1月、東京都江東区に建設を進めていた当社最大の都市型物流拠点「Tokyo C-NEX」が竣工いたしました。地上5階建て、延床面積150,709㎡(45,589坪)の当施設は、都心部や駅・港・空港に近い立地優位性を持ち、付加価値の高い物流サービスの提供が可能な都市型物流拠点です。また、当施設は免震構造や非常用電源を有するなど、災害にも強く、さらに近隣の各拠点に在籍する2,000名以上の当社スタッフを弾力的に配置することにより、人材不足にも対応可能であり、お客様の事業継続をサポートできる安定性を備えております。



TOPICS 2

第48回全国トラックドライバー・コンテストで優勝

当社グループは、10月22日・23日に開催された、「第48回全国トラックドライバー・コンテスト」(主催：公益社団法人全日本トラック協会)に出場し、11t部門で平岡誠次選手(倉敷支店)が、トレーラ部門で石神孝信選手(中京コンテナ支店)が、それぞれ優勝を果たした他、計9名が上位入賞を果たしました。



写真前列左が平岡誠次選手、前列右が石神孝信選手

TOPICS 3

日通野球部、 第42回社会人野球日本選手権大会で準優勝

当社野球部は京セラドーム大阪で行われた、社会人野球の単独チーム日本一を決める第42回社会人野球日本選手権において21大会ぶりに決勝戦へ進出いたしました。11月8日に行われた決勝戦では、接戦の末、対戦相手のヤマハに惜しくも2-3で敗れたものの、見事に準優勝を果たしました。



その他のトピックス

2016.10.1 - 2017.3.31

- ▶ **2016.10**
アジア向けデジタルマーケティング事業を展開する「Fun Japan Communications」が営業開始
インバウンドビジネス・海外事業展開・自治体の地方創生の成長・創造にむけ、当社・JTB・三越伊勢丹ホールディングス・日本航空の4社で共同出資。
- ▶ **2016.11**
「日通の森」森林育成活動10周年記念
山形県飯豊町「日通の森」での森林育成活動10周年を記念し、本社玄関前に「草木塔(そうもくとう)」を建立。
- ▶ **2016.12**
業界最速のメキシコ向け航空混載サービス「Mexican Eagle Liner Midnight Express」を開始
国内各地から発送された荷物を羽田発ロサンゼルス向け深夜便に積込。ロサンゼルスでは、自社による転送作業を実施し、出荷日の翌日早朝にメキシコ着を実現。
- ▶ **2017.1**
株式会社カブクと業務提携
3Dプリンタ等の技術を活用した製造受託サービスを提供する株式会社カブクと物流分野で業務提携。
- ▶ **2017.3**
新造RORO船「ひまわり8」の進水式を挙行
ひまわり8は、船首・船尾にトレーラ等がそのまま入り込めるランプウェイを装備したRORO船(roll on/roll off ship)で、本年9月より東京～北海道航路へ就航予定。

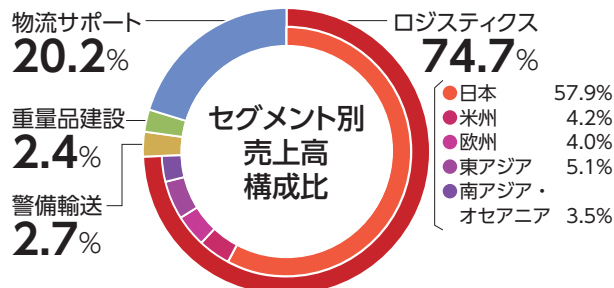
より詳細な情報は当社HPの
ニュースリリースをご覧ください。

<http://www.nittsu.co.jp/press/>



連結業績ハイライト (2017年3月期)

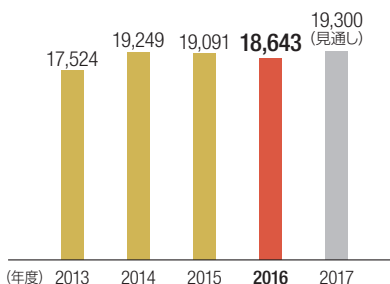
	2016年実績	2017年見通し
売上高	1兆8,643億円	1兆9,300億円
営業利益	574億円	670億円
経常利益	638億円	700億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	364億円	420億円



※グラフの比率は調整額を除いて作図しております。

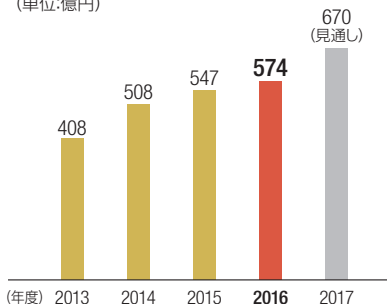
売上高

(単位:億円)



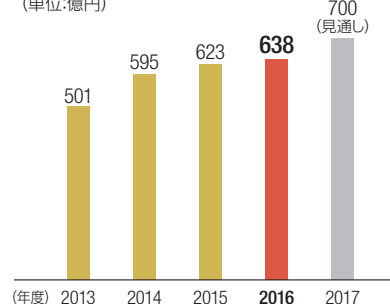
営業利益

(単位:億円)



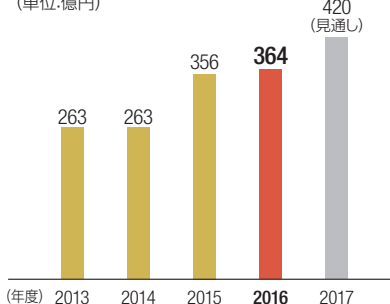
経常利益

(単位:億円)



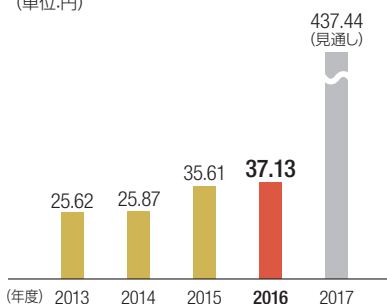
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:億円)



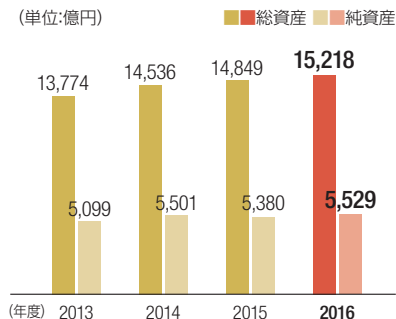
1株当たり当期純利益

(単位:円)



総資産・純資産

(単位:億円)



※2017年度につきましては、株式併合の影響を考慮しております。

セグメント別の状況 (2017年3月期)

※当社グループは、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。これにともない、前年度の数値をセグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

		当期(百万円)	前期(百万円)	増減率(%)
ロジスティクス	日本	売上高 セグメント利益	1,155,713 38,658	1,158,390 36,601 △0.2 5.6
	米州	売上高 セグメント利益	83,831 4,772	94,697 5,088 △11.5 △6.2
	欧州	売上高 セグメント利益	79,286 2,030	84,579 1,559 △6.3 30.2
	東アジア	売上高 セグメント利益	101,746 1,117	115,068 1,679 △11.6 △33.5
	南アジア・オセアニア	売上高 セグメント利益	70,343 2,486	70,225 1,568 0.2 58.5
警備輸送	売上高 セグメント利益	54,781 964	53,803 1,570 1.8 △38.6	
重量品建設	売上高 セグメント利益	46,985 3,883	51,395 3,687 △8.6 5.3	
物流サポート	売上高 セグメント利益	403,994 10,015	410,906 8,161 △1.7 22.7	
調整額	売上高 セグメント利益	△132,381 △6,498	△129,962 △5,139 — —	
合計	売上高 セグメント利益	1,864,301 57,431	1,909,105 54,778 △2.3 4.8	

日通グループ経営計画2018

《2016年4月1日 - 2019年3月31日》

—新・世界日通。—

本経営計画では、重点戦略として、縦軸に面としての「エリア戦略」を、横軸に強化・変革の対象としての「機能戦略」を展開し、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を行い、利益にこだわるグループ経営を推進してまいります。



「世界にただ一つのかけ 期待と信頼を運ぶ。それ

2016年4月29日より、日伊国交樹立150周年を記念し、「世界遺産 ポンペイの壁画展」が東京をはじめ名古屋・兵庫・山口・福岡の5会場で開催され、その圧倒的な存在感で訪れた人々を魅了しました。イタリア中南部カンパーニア地方に位置するポンペイは、かつてヴェスヴィオ火山の大噴火により火砕流に飲み込まれ、一夜にしてその時を止めてしまった悲劇的な古代都市でした。しかし、火山灰が乾燥剤に似た役割を果たしたことで、当時の色鮮やかな壁画の数々が奇跡的に保存され、現代に再びその姿を現すこととなりました。

今回、坂部泰斗主任率いる関東美術品支店のチームが挑んだのは、どの作品も重さ100kgから最大で500kgにも及び壁画約80点であり、まさに世界にただ一つのかけがえのない文化的財産でした。海外発の

火山噴火で埋もれた 古代都市の壁画に挑む

「がえのない文化的財産」 が、日通品質。

美術品輸送では、下見ができず到着するまで詳しい状態が分からないことも多く、その場で作業方法の変更を余儀なくされる場面もありますが、屋根の高さを変えられるトラック、500kgを持ち上げるパワーリフター、作品のサイズに合わせた台車作りなど、想定できるものはすべて事前に準備し、すぐに最適な方法を提案できるように備える。それが当社に根付く段取り八分の精神であり、唯一無二の至宝を運ぶ日通品質なのです。



※美術品保護のため、無帽または帽子のつばが作品に当たらないよう作業を行っています。

担当日通マンの声

「日通ならなんとかしてくれる」その信頼に応えたい。

美術品の輸送は同じことの繰り返しがなく、まさに一期一会と言え、毎回それぞれに合った輸送方法を作り上げていくことになります。また、代わりのない一点ものため、絶対に失敗の許されないプレッシャーもありますが、唯一無二の文化的な財産を自らの手で輸送する喜びはとて大きく、輸送を通じて本物を目の当たりにする喜びを届けたい。そんな気持ちで、日々業務に取り組んでいます。

私がいつも大切にしていることは「現場では何があるかわからない。だからこそ想定できる準備はすべて行う」ことです。まさに段取り八分の精神であり、その結果が当社に対するお客様からの信頼であると感じています。これまで積み上げられてきた確かな技術とノウハウにより、お客様の期待に的確に応えられる体制があるからこそ今回のような大きなプロジェクトや実際の作業における緊急対応を前にしたときにも、恐れることなく立ち向かうことができました。

「運べないものは、ない。」と自信を持って言えるよう、今後も信頼と期待に応え続けていきたいと思えます。



日本通運株式会社
関東美術品支店
営業第一課
坂部 泰斗 (主任)
業務経験年数：8年

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	当期末 2017年3月31日現在	区 分	当期末 2017年3月31日現在
資産の部		負債の部	
流動資産	705,994	流動負債	438,468
現金及び預金	212,683	支払手形	5,833
受取手形	23,162	買掛金	156,864
売掛金	298,594	短期借入金	60,606
たな卸資産	6,128	未払法人税等	16,517
その他	166,543	賞与引当金	21,299
貸倒引当金	△ 1,117	その他の引当金	37
固定資産	815,805	その他	177,309
有形固定資産	518,123	固定負債	530,346
車両運搬具(純額)	26,816	社債	125,000
建物(純額)	245,275	長期借入金	209,724
土地	178,991	その他の引当金	205
その他(純額)	67,039	退職給付に係る負債	157,371
無形固定資産	119,455	その他	38,046
のれん	43,047	負債合計	968,815
その他	76,407	純資産の部	
投資その他の資産	178,226	株主資本	524,450
投資有価証券	125,896	資本金	70,175
その他	53,400	資本剰余金	24,707
貸倒引当金	△ 1,070	利益剰余金	449,713
資産合計	1,521,800	自己株式	△ 20,145
		その他の包括利益累計額	11,928
		その他有価証券評価差額金	56,945
		繰延ヘッジ損益	6
		為替換算調整勘定	992
		退職給付に係る調整累計額	△ 46,015
		非支配株主持分	16,606
		純資産合計	552,985
		負債純資産合計	1,521,800

連結損益計算書

(単位：百万円)

区 分	当期 2016年4月1日～ 2017年3月31日
売上高	1,864,301
売上原価	1,702,006
売上総利益	162,295
販売費及び一般管理費	104,863
営業利益	57,431
営業外収益	12,833
受取利息	455
受取配当金	2,733
持分法による投資利益	1,733
その他	7,910
営業外費用	6,458
支払利息	3,420
その他	3,037
経常利益	63,806
特別利益	8,392
固定資産売却益	5,336
投資有価証券売却益	109
段階取得に係る差益	2,291
その他	654
特別損失	11,365
固定資産処分損	4,626
災害による損失	874
退職給付制度移行損失	679
その他	5,184
税金等調整前当期純利益	60,834
法人税等	23,539
当期純利益	37,294
非支配株主に帰属する当期純利益	840
親会社株主に帰属する当期純利益	36,454

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

区 分	当期
	2016年4月1日～ 2017年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	102,360
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 70,961
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,820
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2,940
現金及び現金同等物の増減額	16,638
現金及び現金同等物の期首残高	146,007
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	740
現金及び現金同等物の期末残高	163,386

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**
営業活動によるキャッシュ・フローは1,023億円の収入となり、前連結会計年度に比べ235億円収入が増加しました。その主な要因は、仕入債務の増減額による支出が減少したこと等によるものであります。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**
投資活動によるキャッシュ・フローは709億円の支出となり、前連結会計年度に比べ519億円支出が減少しました。その主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が減少したこと等によるものであります。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**
財務活動によるキャッシュ・フローは118億円の支出となり、前連結会計年度に比べ557億円支出が増加しました。その主な要因は、長期借入れによる収入が減少したこと及び自己株式の取得による支出が増加したこと等によるものであります。

連結株主資本等変動計算書 (2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	70,175	25,306	445,495	△19,818	521,158	47,118	△214	8,085	△53,888	1,101	15,758	538,018
当期変動額												
剰余金の配当			△10,927		△10,927							△10,927
親会社株主に 帰属する当期純利益			36,454		36,454							36,454
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		△599			△599							△599
自己株式の取得				△21,634	△21,634							△21,634
自己株式の消却		△0	△21,307	21,308	—							—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						9,826	220	△7,093	7,873	10,826	848	11,675
当期変動額合計	—	△599	4,218	△326	3,291	9,826	220	△7,093	7,873	10,826	848	14,967
当期末残高	70,175	24,707	449,713	△20,145	524,450	56,945	6	992	△46,015	11,928	16,606	552,985

※記載金額は、百万円未満切り捨てにより表示しております。

より詳細な業績の情報は、当社のIRサイト <http://www.nittsu.co.jp/ir> をご覧ください。

日本通運 IR

検索

役員 (2017年6月29日現在)

取締役

代表取締役会長



渡邊 健二

代表取締役社長 社長執行役員



齋藤 充

代表取締役副社長 副社長執行役員



伊藤 豊



石井 孝明



竹津 久雄

取締役 専務執行役員



島内 技



寺井 克宏



佐久間 文彦



秋田 進

取締役 常務執行役員

取締役 執行役員



林田 直也



堀切 智



松本 義之

取締役



杉山 雅洋



中山 慈夫



安岡 定子

※取締役 杉山 雅洋、中山 慈夫および安岡 定子の各氏は社外取締役です。

監査役

常勤監査役



和田 貴志



鈴木 達也



神吉 正

監査役



野尻 俊明



青木 良夫

※ 監査役 神吉 正、野尻 俊明および青木 良夫の各氏は社外監査役です。

執行役員

常務執行役員 横尾 行雄

常務執行役員 高橋 康紀

常務執行役員 近藤 晃

常務執行役員 井手 憲文

常務執行役員 田中 和志

常務執行役員 青山 陽一

常務執行役員 杉山 龍雄

常務執行役員 中村 栄一

執行役員 植松 満

執行役員 吉岡 英

執行役員 内田 敏朗

執行役員 池田 誠

執行役員 佐藤 武司

執行役員 宮脇 一郎

執行役員 中川 真人

執行役員 神取 浩

執行役員 船木 博文

執行役員 海野 茂

執行役員 永井 裕

会社概要 (2017年3月31日現在)

会社名 日本通運株式会社
(NIPPON EXPRESS CO.,LTD.)

設立 1937年10月1日

資本金 701億75百万円

従業員数 32,008名

本社 〒105-8322
東京都港区東新橋一丁目9番3号
TEL.03-6251-1111
<http://www.nittsu.co.jp/>

連結子会社および持分法適用会社

連結子会社 268社
持分法適用会社 25社

株式関連情報

(2017年3月31日現在)

株式の状況

株式数	発行可能株式総数	3,988,000,000株
	発行済株式の総数	998,000,000株
株主数		57,479名

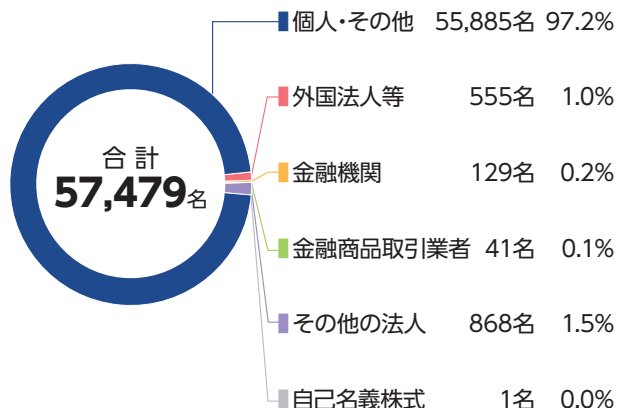
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	82,425	8.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	73,347	7.6
朝日生命保険相互会社	56,019	5.8
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	50,967	5.3
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	41,500	4.3
日通株式貯蓄会	35,179	3.7
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	17,823	1.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	14,921	1.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	14,214	1.5
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	12,565	1.3

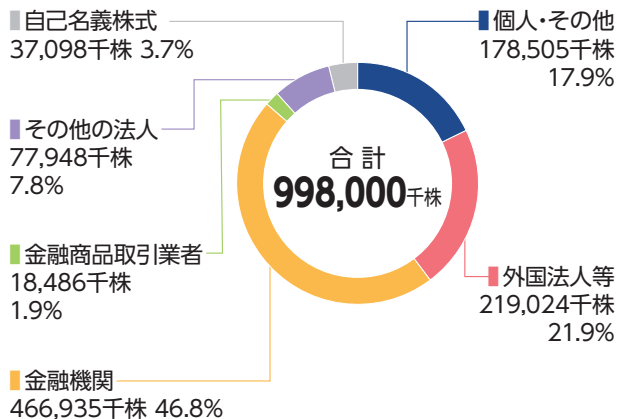
※当社は、自己株式37,098千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

所有者別株式の分布状況

〈株主数および比率〉



〈株式数および比率〉



単元株式数の変更および株式併合について

当社は、2017年10月1日をもって、当社普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、2017年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主様の保有株式数10株につき1株の割合で併合いたします。なお、この単元株式数の変更および株式併合に伴う株主様による特段のお手続きの必要はございません。

株式併合による影響

株式併合により、株主様が所有される当社株式数は株式併合前の10分の1となりますが、一方で1株当たりの純資産額は株式併合前の10倍となり、株式市況の変動など他の要因を除けば、株主様が所有される当社株式の資産価値に変動はございません。

1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株未満の端数が生じた場合には、会社法の定めに基づき、全ての端数を当社が一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主の皆様に対して、端数の割合に応じて交付いたします。

お問い合わせ先

単元株式数の変更および株式併合に関してご不明な点がございましたら、お取引のある証券会社または下記の株主名簿管理人にお問い合わせください。

「株主名簿管理人」

三菱UFJ信託銀行株式会社

 **0120-232-711** (通話料無料)

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から
翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月


基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

単元株式数 1,000株

上場取引所 東京

証券コード 9062

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

(同連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 0120-232-711

公告方法 電子公告
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告掲載ホームページアドレス
<http://www.nittsu.co.jp/>

運べないものはない。

800年以上の想いととも
に、国宝の仏像を運べ。



京都・三千院 観音菩薩坐像

奈良・安倍文殊院 普賢童子立像

東京で行われる日本国宝展のために、
その仏像は運び出された。
化学変化を起こさない紙。
わずかなくぼみに合わせた木枠。
リハーサルができない分、
何度も頭で考える。
仏像に込められた、
その想いも一緒に運びたい。
受け継いできた技術と心は
今日の仕事にも生きている。

その想いを胸に、
今日も運び続ける。

それが、日通品質。



日本通運 美術品事業部



〒105-8322 東京都港区東新橋一丁目9番3号
TEL: 03-6251-1111
URL: <http://www.nittsu.co.jp/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。